

令和元年度 図書館活用推進実践事例

新潟市立横越小学校

1. 推進校指定にあたって

横越小学校では、図書館活用推進校事業が始まった5年前から、5年後の推進校指定に向けて準備を始めました。

取り組み① 魅力ある図書館を整備し、来館者数を増やし、年間貸出平均数を伸ばす

→ 年2回の読書週間「図書館まつり」の催しに加え、月2回の5冊貸出日「わくわく図書館デー」を設定し、図書館へ来館する動機づけを行った。貸出カードの様式を一新し、本を読むことの達成感を目に見える形で実感できるようにした。返却日順守のために各学年へ図書館利用配当時間での来館をお願いし、定期的に図書館へ来館する習慣づけを行った。

⇒ 平成26年度全校貸出平均 87冊 → 平成30年度 120冊

取り組み② 先生方に調べ学習の手段として図書館の利用を位置付けてもらうようアピールする

→ 調べ学習の方法やシンキングツール紹介の掲示を常設。情報カードを設置し、オリエンテーションや図書館を利用する授業など、折に触れて利用を提案・指導する。年度初めの校会にて職員向け図書館だよりを発行、昨年度の利用実績も併せて配付し、授業づくりの参考にしてもらう。またそれをもとに司書からも先生方に声を掛ける。

取り組み③ 取組①②を蓄積していくことによって、年間利用計画を作成・更新し、図書館と図書資料の利用推進に繋げる

これらを踏まえて、活動の重点項目を設定するため、今年度の初めに職員アンケートを実施。自校の学校図書館活用の現状について、以下の結果を得ました。

- 図書館を読書活動にしか使っていない、「学習センター」「情報センター」としての認知が低い
調べ学習用の資料は司書が選書して指導者が確認したあと教室階へあげるの、子どもの図書館利用能力や資料の選択・選別能力が育成できない。
- 授業で使用する図書のレファレンスやブックトーク等の依頼が国語に偏る
- 使った資料の記録を取る習慣がない
情報の根拠（ソース）の明示は調べ学習の重要な要素。資料の書誌情報とその資料から分かったことを控えておくことで、情報の再現性を担保でき、考えを整理したり文章をまとめたりする際にも役立つ。

これにより、今年度の重点項目を

『学習センター』『情報センター』としての図書館の認知を高める

とし、今まで行ってきた取り組みに組み込むこととしました。

それに伴い、「図書館教育計画」を作り直し、年度初めに全職員に配付、重点項目の周知を図りました。

2. 取り組み内容

1) 「読書センター」としての図書館の取り組み

① 図書委員会による読書週間「図書館まつり」の開催（年2回）

< 横小ビブリオバトル「本の総選挙」 >

図書委員を低中高3つのグループに分け、各グループで2人1組になり「おはなし大統領候補本」を3冊ほど選出、それぞれの候補本の選挙ポスターを描き、児童玄関前の掲示板に掲示しました。またお昼の放送で大統領候補の応援演説（本の紹介）をし、図書館での投票を呼び掛けました。候補本は図書館で展示し、選挙期間と開票後しばらくは誰でも読めるようにしました。

投票日当日は低・中学年を中心にたくさんの児童が投票に集まり、実際の選挙とほぼ同じ形式の投票方法に興味津々の様子でした。事前に本の内容を読んでいた児童が他の児童に自分の応援する本への投票を勧める姿なども見られ、これを機に読んで面白かった本の情報共有が定着する可能性を感じました。



< 「本の福袋」争奪 大ジャンケン大会 >

図書委員を低中高3つのグループに分け、各グループで福袋のテーマを3つほど決めました。テーマに沿い、かつ自分が担当する学年が読める内容の本を図書館の中から2～3冊選び、リボンをかけて丁寧に梱包しました。

福袋を最初に借りられる人を決めるために、ジャンケン大会を開催しました。図書委員とジャンケンをして最後に勝ち残った人に福袋を選ぶ権利が与えられます。福袋を開いた児童は、自分では選ばないような本が入っていたことに喜んだり、入っていた本の分厚さに驚いたりといろいろでしたが、知らない本を知ることができてよかったという声もあり、様々な本に触れるきっかけになったようでした。



② 地域と連携した読書指導 読み聞かせボランティア「おはなしこっこ」

横越小学校で30年近く読み聞かせの活動をしてくださっているのが、「おはなしこっこ」の皆さんです。週に1回、学年ごとに朝の読み聞かせをお願いしています。また、学習単元や行事に合わせて横越地域に伝わる昔語りやブラックシアターなどの催しもしてくださっています。

選書は学校図書館にある本が中心なので、読み聞かせのあった日は図書館の来館者と本の問い合わせが多くなります。朝の15分間ではありますが、低学年は集中しておはなしの世界に浸ることができ、高学年では忙しい中でもクラスみんなでゆったりとした時間を持つことができます。

おはなしこっこさんの研修として、横越小学校に講師を招いて図書館を会場に児童におはなし会を開いてもらう取り組みも、長年続けています。



③ 小中連携した繋がりのある読書指導「出張！横中図書館」（後期読書週間）

中学校に入ると読書量が大きく落ちるという話を中学校の司書から聞いていました。中学校の貸出ベスト本をお聞きして卒業前の6年生に伝えたり、卒業生の読書傾向を中学校に伝えたりと、いろいろと情報共有をしてきましたが、今年度は中学校の図書専門部の皆さんに中学校の図書館から小学生（主に6年生）におすすめの本を選んでもらい、小学校に貸していただきました。

中学生が本の内容やおすすめポイントを書いた素敵な帯をすべての本につけてくれていたので、児童は興味津々で本を手にとっていました。昼休みに館内で読みふける姿も多く見られました。

また、小学校からも中学生に読んでほしい絵本を選び、本の紹介カードと併せて中学校へ貸し出しました。卒業生も懐かしそうに手に取ってくれていたとのことでした。



2) 「情報センター」としての図書館の取り組み

① オリエンテーションの分類指導

1・2年生は図書館の基本的な使い方、3年生以上は2年生の後期に図書の時間で学習した日本十進分類法の復習をしています。今年度は「自分が調べたい情報をどの分類から持ってくればいいのか」を考えることができるように、本の表紙カードと分類表、本棚を模したシートを使って分類ゲームを行いました。

本年度に至るまでの継続的な分類指導のおかげか、おおよその児童が上手く分類表を使っていましたが、自分がよく読む分類以外の本についてはどの分類に属するのか判断がつかないことも多く、いかに興味の幅を広げられるか、読書指導の取り組みに工夫が必要だと感じました。



② 1・2年生への図鑑利用指導

1年生「はたらくふね」、2年生「ビーバーの大工事」の単元に合わせて、1年生には目次の使い方の指導、2年生には図鑑の目次と索引の使い方の指導をしています。2年生はまだ辞典の学習をしていないので、五十音順に並んでいる索引から単語を拾うことに悪戦苦闘している児童が多く見られました。次年度からは前段階として五十音順の学びを入れることを考えています。



③ N I Eへ繋ぐ新聞記事紹介

児童に「図書館には新聞がある」という認知と興味を持ってもらうために、N I E推進校に指定された年度から、お昼の放送の時間に図書委員会による新聞記事の紹介をしています。図書館では新潟日報、ふむふむ、毎日小学生新聞を収集しています。収集した新聞を授業でどう活用してもらうか、蓄積資料としてどう保存していくか、が今後の課題です。



3) 「学習センター」としての図書館の取り組み

① 調べ学習掲示と自習スペースの設置

昨年度の図書館改造の際、カウンターの横に「自習スペース」を作りました。閲覧スペースの喧騒と距離を置けるように本棚やキャビネットで区切り、検索機、新聞、情報カード、シンキングツールなどをまとめて設置し、壁面に「調べ学習」について、テーマの探し方からまとめ方までの手順、基本的なシンキングツールの使い方、引用の仕方、参考文献一覧の作り方などを掲示しています。壁面の掲示は図書館での調べ学習中につまずいた児童に説明するときに役立っています。



当初は授業中や休み時間の自習や、気持ちに波のある児童のクールダウンのための場所として考えましたが、昼休みに係や委員会の小規模な話し合いに使われたり、高学年児童の雑談サロンになったりと、「図書館に行く」目的の一つになっているようです。

② 「情報カード」の設置・配布

書誌情報と調べたことをまとめて管理できる「情報カード」を作り、図書館に設置しています。国語や総合の調べ学習の際に利用されています。

各学年の単元における利用実践を別紙にまとめます。

③ 単元に合わせたブックトークの提案・実施

今まで読書週間に合わせて司書から各学年やクラス毎の要望を取りブックトークを実施してきました。図書館利用計画が蓄積され、先生方に提供するようになってから、平行読書のためだけでなく、単元の導入やまとめて依頼されることが増えました。実践事例が増えていくと、資料依頼があったときに司書からブックトークの提案もできるようになりました。

< 5年生枕草子「日本古典文学」>

5年生国語の「枕草子」の単元で、日本の古典文学作品についてのブックトークを依頼されました。「随筆」「和歌集」「物語」「軍記物」などのジャンルの説明と代表的な作品を紹介しました。公共図書館から全集や図録を借り、館内展示も行いました。



< 6年生社会・国語「第二次世界大戦」>

6年生社会科と国語の第二次世界大戦に関わる単元で読み聞かせとブックトークを依頼されました。記録や物語を中心に、戦争に関する知識を得られる本、戦争について児童が考えられる本を紹介しました。



3. 推進校事業を振り返って

特別なことをするよりも、この5年間で積み重ねてきたものをまとめた形になりました。

様々な取り組みにより、5年前と比べると、児童の生活の中に図書館という場所がずいぶん浸透してきました。その結果、休み時間の図書館来館者と全校貸出数平均は大きく伸び、また児童にも職員にも「調べものをするときは図書館」という意識ができて、学習で図書館の資料を活用する機会が増えています。特に今年度は、全校児童に「学習センター」「情報センター」としての図書館の認知を高めることができました。

来年度から新学習指導要領の本格実施が始まります。教科書の内容が一新される教科もあります。この図書館利用計画を学校の実態に合わせてながら更新し、図書館と資料の利用を進めていきたいと思えます。